

# 福島談話ナイト ～今を知り、明日を描く～

もうすぐ、7回目の3.11がやってくる。  
あれから人々はどんな生活をしているのだろう。

福島をめぐる、今起きていること。それは本当に福島だけで起きていること？  
今を知り、明日の自分の生きる社会を思い描いてみませんか。

当日は、手と体を動かし、みんなで楽しみながら“できること”メニューを創る、ワークショップスタイルで進めていきます。  
ご参加お待ちしております！

## MEET

福島で支援活動を行うゲストたちのトークライブ

## THINK

ゲストと参加者で福島と自分たちの未来を考える

## ACT

“できること” “つながる方法” のヒントを得る



生活や仕事がなくなり、ふるさとを離れなければならなかった人々は？

AAR Japan[難民を助ける会]  
仙台事務所所長  
大原 真一郎

今も仮設住宅や避難先で生活を続ける人々。今後の生活に見通しが立たなかったり、支援対象から外れ、貧困や心の葛藤に苦しんでいる人々に寄り添う。

子どもたちの健康を守りたかったお母さんたちは？

いわき放射能市民測定室「たらちね」  
事務局長  
鈴木 薫

子どものため、毎日食卓に出す食べ物や生活環境を守るため、食事の準備と同じように放射能を測る。いわき市の母親たちが中心となり、放射能測定事業を開始。

誰かがしなければならぬ、除染や廃炉の仕事についての人々は？

仙台夜まわりグループ  
施設部長  
新田 貴之

仙台に増えているホームレス。福島で原発事故処理で働き、見知らぬ土地に流れ着いた人も。復興の陰で貧困にあえぐ人々の実態に日々立ち向かう。

●開催日時：2018年1月29日（月）19:00-21:00（開場18:30）

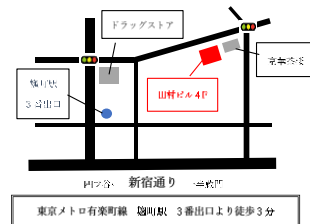
●場所：パティア麹町店（東京都千代田区麹町3-12-11 麹町田村ビル4F）  
※東京メトロ麹町駅から徒歩3分、半蔵門駅から徒歩4分

●司会：加藤 玲奈（元日本テレビ記者・キャスター、AAR Japan [難民を助ける会] 支援事業部 プログラム・コーディネーター）

●ファシリテーター：高橋 聖子

●お申込み：参加無料。定員30名。 [info@japanplatform.org](mailto:info@japanplatform.org) 宛に、件名を「福島談話ナイト」とし、氏名、ご所属、肩書き、メールアドレスを明記してお送りください。

※1月26日（金）〆切



### JPFの「福島支援強化」

- 2011年3月11日、JPFは発災から3時間以内に出勤を決定。その後、仙台に東北事務所を開設し、岩手、宮城、福島県に各地域担当を配置。被災地の声と課題を把握しながら、多様なセクターからのリソースを適材適所にマッチングするコーディネーションの役割にも尽力してきた。
- 多くの支援関係者が福島を撤退した震災5年目の2015年、複雑な課題を抱える福島およびその広域避難者を抱える地域において、少なくとも2018年度末までの支援継続を決定。現地の状況とニーズを分析した5つの重点活動（①社会的弱者の支援、②地域セーフティネット強化、③地域文化の存続、④放射能不安への対応、⑤地元主体のネットワーク促進）を掲げ、地元の人に寄り添った支援を実施中。